不発弾処理は進展している（Vientiane Times TUESDAY FEBRUARY 13, 2007）

先週、ヨーロッパの使節団が EU が資金提供した不発弾処理のプロジェクトの Khammuan や Savannakhet プロビンスにおける実施状況を見るために、報道陣を伴ったツアーを実施した。

このツアーの目的はメデイアのメンバーに EU が２００６年から２００７年にかけて、Khammuan プロビンスにMAGを通じて１００万ユーロを、Savannaket プロビンスにＨＩＳを通じて１００万ユーロを資金援助したプロジェクトの進展状況を見せることである。

このプロジェクトは、人々が土地を農業や学校、道路に活用してラオスにおける貧困を削減するための一環として実施されるものである。

MAGによれば、２００６年以降、２９件の不発弾に関する事故によって、１８人が死亡し、３７人が負傷した。

これらは、残された家族に苦難をあたえることになる。犠牲者への対応に必要な資金が重荷になるし、農業経営体にとって無能な労働力を抱えることでマイナスの効果を与えるためである。

Khammuan プロビンスでは、MAGは Bualapha 地方の Langkhan 特別経済区と周辺の１４のビレッジの新しい地域に焦点をあてて不発弾除去に努めてきた。

MAGのテクニカルマネージャーである Mr.Pascal の話によると、プロジェクトがスタートして以来、道路建設、病院やその他の建物用地を除いて、農地の約３０ヘクタールが処理された。

最も多く使われたＢＬＵ２６爆弾を含む１６０００のアイテムが除去された。

Savannaket プロビンスでは、ＨＩＢは Sepon,Nong,Vilabouly の3地域に焦点を当てて取り組んでいる。この地域は、数千の爆弾がインドシナ戦争の期間中、特にホーチミンルートに沿って投下されたところである。いままでのところ、２００８００平方メートル以上が処理された。そのうち１７８０００平方メートルが農地である。爆弾や地雷を含めて１５５０アイテムを破壊した。

このツアーの期間中、同行させたメデイアの連中は爆破するために爆弾を探している現場を訪れることによって、どのようにしてこのプロジェクトがなされているのか、説明を受け、このプロジェクトの成果を目撃することとなった。

不発弾処理は必要な仕事であると考えられている。なぜなら、多くの村人たちは農業を発展させるために使える農地は限られてくるし、ごく普通の農耕の仕事にいくにも生命の危険にさらされているからである。

１９６５年から１９７３年の間にアメリカ空軍はＢ５２に積載可能な爆弾の量に匹敵する数量の爆弾を９年間にわたって、8分毎に、ラオスに投下したことになる。その総量は二百万トンになる。そのうちの３０％が爆弾としての機能が発揮できずに地中に埋まったまま残された。ホーチミンルートはラオスで最も激しく爆撃をうけたところである。

ＨＩＢのデイレクターである Mr. Luc Delneuville はツアー中、次のように説明した。

「ＥＵの資金援助は今年で終わることになっている。今後、ＥＵからは資金援助は無いだろう。なぜなら、不発弾処理問題はラオスに対する計画的な戦略を構成する一部分にも入っていないからである。」

しかし、彼は、自分たちがこれまで受けてきたＥＵの支援の重要性について強調した。また。彼はＥＵや、さもなければ他からのさらなる資金援助の可能性がまだ残っていると語った。

さらに彼は付け加えて、「このプロジェクトは多くのコミュニテイにとって重要であり、今後、５年あるいは１０年間にわたって、もっと多くの仕事がまだ行われるべきである。人々に安全な土地を用意するために。

小規模融資が開発を促進する（Vientiane Times TUESDAY FEBRUARY 13, 2007）

　世界財団（CONCERN　DORLDWIDE）は今年の財政規模１８０万ドル（２億１６００万円）を有している。来年度は２３０万ドル（２億７６００万円）をもって地方の開発を図ることとなる。
昨日、ビエンチャンの「国際協力。訓練センター」において、「ラオスの貧困に対する小規模融資についての第二回の国の会議」が招集された。
　２００５年において、２０２０年までに最も遅れた低開発国の状態からラオスを脱却させる戦略の一環として、政府は、全国的に最も貧しい４７の地方の人々に２０億５０００万Kを融通した。
小規模融資の財源造成とこれに関する調査研究のプロジェクトは計画・投資委員会と世界財団が共同して進めてきた。
　この共同プロジェクトは２００３年から行われている。と、国立経済研究所の所長である Ms.Sirivanh Khonthapane　が昨日の会議で語った。
彼女はさらに、次のように語った。
　「このプロジェクトの到達目標はこれらの資金を供給することによって、貧しい人々の生活条件を向上させることである。
　現在では、僻地（遠隔地）の人々を支援するために、政府、非政府組織や村落開発ファンドによる、多くの融資制度がある。小規模融資は貧困を削減するため、多くの国で採用されている手段である。
この会議の開催によって、政府機関と NGO などの他の機関の出席者がそれぞれの地域の現場における小規模融資計画の実施状況を報告しあったり、経験交流することが出来るようになった。」
彼らは、それぞれの地域における、その地域の地域性固有の貧困の条件に適切に対応するための手法について議論することとなるだろう。
　「政府は小規模融資を行う事業体を国（この場合、地方と訳す法が適当か・・・前川）の開発や一般的に貧しい人々を支援する手段として重要であると認識している。」と Lao P.D.R.銀行の副総裁である Mr.Bounsong Sommalavong は語っている。
　世界財団はラオスの最も僻地に於いて、数多くのプロジェクトに係わってきた。と財団機構の国家(この場合、地方と訳すべきか･･･前川)主任補佐であり、小規模融資のエキスパートである Mr.Plash Bagchi は語っている。彼は付け加えてさらに、次のように語った。
　「最近の財団の融資計画においては、最貧の人々や最も僻地の人々の生計（暮らし向き）に応じて、担保徴求の必要性について大いに申し上げる方法を探らなければならない状況である」
（seek to address~と言う大変、遠慮勝ちな苦しい言い方になっている。・・・前川）
　「このことは、集積だれた地域開発プロジェクトや最も必要性の高い健康対策の増進を長期にわたって成し遂げることによって、解決が可能な問題である。
　そして、調査研究（事前調査と融資後の経営指導を含まなければならない・・・前川）とそれに基づく開発を実施することによって、政府の小規模融資の実施機関が許容能力を増大させる事が出来るようにサポートすることが重要である。（許容能力とは端的に言って、長期にわたって債権が回収できない状態に耐えうる能力のことと理解する・・・前川）
　一方、社会的機構が許容能力を増大させるよう政府を支援しなければならない。
　財団の活動は７つの最貧地域のうち主に、Bokeo, Savannakhet,Huaphan のプロビンスで活発に展開されている。Mr.Bagchi はさらに次のように説明した。「小規模融資と社会機構開発プロジェクトは今では全国においてその取り組みが見られるようになった。これは、小規模融資が貧困と闘う最も強力な手法の一つであることを示す証しである。」小規模融資は信頼と尊敬と自己尊厳を助長することができるものである。そして、貧困家族の全体的な信頼を増進させるものである。小規模融資は実施に当たっては手法を工夫しなければならに手段である。それは、直ちに実施できる活動ではない。また、対症療法的な薬物にはなりえない。それは、貧困という症状よりも貧困が起こる原因をターゲットにするものである。

ワークショップは食糧の安全保障について呼びかけている（提案している）
（Vientiane Times TUESDAY FEBRUARY 13, 2007）

４カ国からの出席者が第二回目のワークショップに、Vientiane に集まり、地方の食糧安全保障（食料自給のこと）と農業（農場経営）開発プログラムについて議論した。

農業林業省の次長、Mr.Xaypladeth Chounlamany は「このワークショップの目的は、参加各国における食糧安全保障の進展度合い（到達点）について、議論することにある。」と語っている。

バングラデシュ、スリランカ、インドネシアとラオスから出席した６０～７０名の参加者は参加各国においては、この問題については、同質的な条件のもとで似通った対策を進めていることを認識しあい、それらの対策の効果を考察するために、Vientiane に集まった。

第一回目のこの地域の食糧安保に関するワークショップはインドネシアで階差された。目下進行中の「南と南の共同関係を通じての食糧安保に関する特別の計画（SPFS---SSC）」を進める一環として開催されたものである。

「或る国の対策が必ずしも他の国に直接適用できるものではないかもしれないが、新しいアイデアを生み出す刺激剤になるものである。」ことを参加者たちは認識することが出来た。

各国は新しいテクノロジーや人的な、経済的な、社会的な、政治的な、環境的な利益とそのコストについて報告した。

Mr.Xaypladeth は、また、次のように話している。

「これらのワークショップの他の大きな目的は、この４カ国のそれぞれにおいて、新しい食糧安保戦略に貢献するような、もっと大きな規模での食糧安保に向けての活動の可能性を開拓することにある。
これらの４カ国に敬意を払って、立ち返って考えて、参加者たちは、食料安保のために、技術の問題だけでなく、資金や制度上の問題、さらに人的資源の問題についてさらに議論することになるだろう。

インドネシアとラオスとスリランカの間において食糧安保計画の連携について議論が進んでいる。」

ラオス国の食糧安保計画に係る部局の次長である Dr. Somnuk Thirasck は次のように語った。
「４カ国における SPFS---SSC のプロジェクトは終了段階に差し掛かっている。
今は、それぞれの異なるアプローチの中で、何が達成されたのかを総括し、将来に向かって、如何に、前進させるかを指し示す時である。

ここにきて、国連の FAO はラオス政府と共同して、２月１２日から１５日にかけて、ワークショップを組織して実施した。

Dr. Somnuck は語った。

「今日まで、SPFS---SSC のパイロットプロジェクトは世界レベルで１０５以上の国において実施されてきた。FAO は日本政府の資金、技術の両面の支援を得て、２００１年の会議に参加した４カ国に於いて最初のパイロット的な活動を立ち上げた。

国民の食糧安保（食料の自給）は、発展途上国においては重大な開発達成目標の一つである。
人的資源の開発や人間の尊厳と統治能力を強化するにあたって、それは基本的な必須条件であることを、指し示すものである。

SPFS---SSC は貧困なコミュニテイが持続可能な食糧資源を開発するにあたって、地方行政機関と協力共同のもとに、それらの開発努力を鼓舞するように制度設計されている。

その計画は地方当局がその地方の食糧安保（食料自給）計画を履行する能力を高めることになるものである。複数にわたる統制（規制）が採用される。その結果、開発はコミュニテイに基礎を置くべきであるとする原則と巧く調整しながら新しくて革新的なテクノロジーを地方の制度の中に持ち込むことができるようになるのである。

そのプロジェクトは農民の現地における学習機会や農場のグループとしての開発計画や資金の循環を引き起こすことになるものである。SPFS---SSC によって紹介されたこれらの手法は地方政府にとっては新しいものであるが、市民社会においてはお試し済みのものである。

地方の食糧安保（食料自給）は発展している（Vientiane Times TUESDAY FEBRUARY 13, 2007）

全ラオスの家族たちはSPFSのサポートを受けて、貧困から脱出するために、懸命に働いている。

このプロジェクトはBorikhamxay, Champassak, Luang Namtha, Oudomxay, Vientianeのプロビンスに於ける8の地域の１０のビレッジで実施されてきた。計画は最初から灌漑システムを改善することに焦点が当てられてきた。農業生産や穀物、畜産の生産性を向上させるための水を用意するためである。それはまた、農民たちが養魚場を増やし、とりわけ、例えばゴムのような商品になる樹木を植林すことによって林業生産を拡大することに大いに役立った。

それはまた、賦存する資源（農地に使える土地のこと・・・前川）の生産力を増強する簡単な手段になることを農民に教えることになった。そして、農業生産物の貯蔵期間の延長とそれによる市場販売を拡大するプロセスをどのようにすればいいのかを学ぶこととなった。

プロジェクトは村人のために資金を用意した。村人は簡単な償還計画（無利子）を提出し、承認されると融資（ローン）を受けることができる。ラオス政府によって信用保証され、２００１年にその運用が宣言され、国の専門家に運営いたくされて、最初の５年間は資金規模は２６０万ドル（ラオス政府からは１００万ドルが拠出された）である。

この制度は、さらに１年間、この5月まで延長されることとなった。日本政府から２７万５千ドルの追加の財政措置を受けて延長されることとなった。政府やＦＡＯやベトナムの SSC の専門家や農業技術者の技術援助を受けて運用される。

計画はこのプロジェクトが実施される地域の全ての人々が確実に食糧を手にする事が出来ることを保証することに狙いを定めた政府の理念や戦略をサポートするものである。

穀物生産の単位面積当たりの生産量の増大や農業生産体制の多様化が成果となって現れる。

プロジェクトは農業生産を拡大したいと願っている農民を支援するために、その地域の実情に合わせて活動できるもっと多くの技術力のある専門技術者や資格のある適任者を用意することにしている。

関心のある農民は新しい農業技術を学び、新しい栽培技術や家畜の飼養管理に入っていくことになる。

これらの成果は農業生産や家族収入の水準を向上させ、農家世帯段階での食糧安保（食料の確保・・・前川）を増進させることにつながる。

さらに言えば、農民たちは自然からの資源を効率的にそして持続的に管理していくことが可能になり、同時に、プロビンスやデイストリクトの職員スタッフの能力を掘り起こし、彼らの仕事がもっと改善されることになる。

Vientiane プロビンスの Hinheup 地方の Khonkeo ビレッジの住民である Mr.Phonexay は次のように話している。「牛や水牛の多くの飼養群（飼養頭数）は、このプロジェクトの支援を受けて以降、毎年、５％づつ増加している。」

モン　ミュージックのヴィデオショット（Vientiane Times TUESDAY FEBRUARY 13, 2007）

大きな木の木陰の下で、男女の若者がベンチで一緒に座っている。
女性はシャイなようだ。一方、モンの言葉でしゃべっている男性は彼女ときっかけをつくろうとトライしている。
モンの人たちにとって、こうしたロマンスがらみのシーンはまれなことである。
アメリカに基礎を置いたコミュニテイヴィデオのプロジューサーであるMr. Neej Tshabにアメリカからラオスまで来て彼の制作するミュージックビデオのためのモンの若い女優と歌手を探すために、長い旅をする気持ちを起こさせた。
日曜日のインタビューで彼は語った。
「ラオス文化の販売促進したい。ことに、モン族の文化をである。それで金儲けしようとは思わない。ラオスには才能のある人々がいる。また、それだけで訪れる価値のある美しいところがたくさんある。ミュージックビデオを撮るためにラオスへ来たのはこれが最初である。必要な長さのビデオを撮ってミネソタに帰り、編集して最終製品のミュージックビデオしにして販売することになる。これによって大金を儲けようとは思っていない。
Mr. Neejはラオスで生まれアメリカで育った。ミネソタにはモン族の大きなコミュニテイがある。多くの若者が居り、彼らは、若いモンの人たちがラオスではどんな生活をしているのか知りたがっている。
ラオス文化を広めるためにビデオを作りたい、そしてアメリカにおける彼の属するコミュニテイで
ラオスに対する良い感情が広がっていくことが望みである。我々のコミュニテイの人々が見てみたいと思うような美しい場所を私はラオスで見てきた。それが、私がビデオを作るためにここに来ることを選択した理由である。アメリカには無い多くのものがここにはある。彼はこう説明してくれた。
彼はここで、主に若者の生活をテーマにした３～４曲を録音する計画である。たとえば、一人の少年がひそかに一人の少女を愛している。その彼は多くのモンの人々を愛している。また、彼はそのことを彼女に話せないほどシャイである。と言ったような曲である。若者がビエンチャンの通りをバイクに乗っているようなシーンや多くのモン族が住まいしている地方の居宅などの映像を使って音楽を表現したい。
彼は大きなモン族のコミュニテイであるVientianeのXaythanyデイストリクトのThadindaengビレッジで出演女優を探すことが出来た。それらの多くは彼の親戚である。だから、ボランテイア出演のようなことで彼を助けてくれたとのことである。彼らの幾人かには、撮影に先んじて演じてくれる謝礼に何がしかのチップを渡した。音楽は多くの人々にアピールするかどうか確信が持てない、しかしながら、将来にわたってこの仕事が発展するように、この音楽を聞いたなにがしかの人々が反応をしめしてくれることを期待している。
男優として出演してくれた一人がビエンチャンのサロンサイガーデン（salongxay Garden）にビデオ撮影のために集まってきた。モン族の歌手としてこの録音で役割を演じてくれたことを幸せに感じている。
そして、アメリカのモンの多くの人々が彼の才能を見てくれることを期待している。
彼は自分を人々にアピールするため、自ら作曲してくれたものである。
このように、Mr. Neejは説明してくれた。

有機農業に取り組む農民が自分たちのビジネスが花開くのを見た。
（Vientiane Times SATURSDAY, FEBRUARY 24, 2007）

有機農業のプロジェクトは今年末までに、１５０の農家がこの事業に参加することになる。そして、彼らのショップで売るに十分なだけの生産が出来るよう期待が集まっている。

このプロジェクトは今では、ビエンチャンの Sikhottabong,Xaysettha,Xaythany,Hadxaifong のデイストリクトの５つのビレッジの４６の農家がこの事業に参加し、働いている。数年前に３農家で始めたものであるが、大変な増え方である。

この「有機農業と市場開拓プロジェクト」の推進共同責任者であるMr. Phouvong Chittanavanh は「我々に生産物を供給してくれる農家がもう少し増えれば、年間を通じて販売するに必要な量の野菜を確保する事が出来る」と話している。

各農家は３２００から９６００平方メートルの農地で人工肥料（化学肥料）や農薬（殺虫剤）を使わずに作物を栽培している。栽培品目はレタス、キャベツ、玉ねぎ、にんにく、とうがらし（チリ）、にんじん、メロン、まめ、トマト、ローカルフルーツである。

このプロジェクトは恒常的に出荷できる市場（ラオスではタラート）をの外に、彼らの有機農産物の販売促進のために野菜ショップを開くことを計画している。

「我々は Chanthabouly デイストリクトの Thongkhankham Market（ビエンチャンで見たタラート・トンカンカン）に店を持っている。しかし、野菜がコンスタントに常時供給できる体制にない。」と先の Mr. Phouvong は語っている。

ショップの開店によって、毎日、有機栽培野菜を売ることができる。しかし、これも安定した供給体制はとれない。たとえば、ショップにはレタスとキャベツは十分な量があるが、ニンジンと豆は少ししかないと言ったようなことである。また、あるときには、トマト、と玉ねぎ、にんにくは多量の供給量があるが、トウガラシとメロンは僅かしかないと言ったようなことである。

「我々がすべての生産品目にわたって安定した出荷が出来るときには、ショップの前に新しい宣伝を掲げなければならない。」とショップアシスタントの Mrs Duangta は語った。

このプロジェクトから、有機栽培の技術を教えられた。また、収穫物は毎月集めるようにして、農家が継続して安定的に作物を栽培するように激励して奨励しなければならない。

「我々は、今のところ、農家の出荷量を推定しなければならない。そして、各栽培品目にわたって定時、定量的な安定した供給が出来るようになるまで、何としてもこの計画を続けなければならない。」と Mr.Phouvong は話している。

さらに彼は続けて、「有機農業は無精者の農家には向かない。」とも語った。

安定した供給が確保出来るようになった時には、野菜のパッキングはそれぞれのビレッジで責任を持って実施することになる。そして、生産物は「有機」Organic とラベリングすることになる。

「我々は、また、生産物をスーパーマーケットやミニマートで販売することを目標にしている。」とも語っている。

彼は農家が仲買人の段階をカットして直接に生産物を小売商に卸すことを援助したと考えている。その場合、自ずと価格を引き下げなければならない。

有機農業は、生態系の内部で生態学的な相互作用を管理する必要がある。化学肥料や農薬（殺虫剤）を使わずに作物を栽培しなければならない。そのために地力を増進させ、作物の健康状態を維持し、害虫や病気の大規模な発生から守らなければならない。などの課題が生産体制の中に提起されるものである。

有機栽培に取り組む農家は化学肥料や農薬（殺虫剤）を排除するよう努めている。化学物質は環境や人間の健康、農地を長期間持続可能な状態にして置くこと、また土地生産性を維持し続けることに、悪影響を与えるためである。Xaythany デイストリクトの Nontae ビレッジの Mr.Bounnhong phomdoktan は次のように話している。「有機農業を３年前から始めた。それまでは、化学肥料や農薬の使用によって害を受けていた。しばしば、胸が締め付けられるような感じになり、大変な咳をしていた。そして、口にする食物の味が判らなかった。そんな、症状が出ていた。主治医は私が化学物質に対するアレルギーを患っている

と言った。１９７４年以来、長年にわたってそれらの化学物質を使っていたのである。」
　今日、彼は農場の副産物である家畜のかいば（飼料）や排泄物、コンポスト、モミガラやわら等のリサイクルから自然の肥料と殺虫剤を作っているのである。
　彼は、もはや、化学物質に金を浪費することは無い。有機生産物の価格は化学物質を使って栽培したものとそんなに変わるものではない。たとえばレタス１２キログラムの生産費は２万から４万Kである。
　私の生産物が有機栽培であることを信じられない取引業者もある。なぜなら、化学物質を使って栽培されたものと、同じくらい良いものであるからである。彼はバラエテイ豊かに野菜を育てている。トマト、豆、メロン、とうがらしなどである。他のマーケットの園芸家 Ms Noy は「彼ら農家は今では自家採種の種を使っている。これまでは輸入種をつかっていたのに。」と言っている。
　Ms Noy は異なるタイプの野菜を彼女の農場で栽培している。彼女が最も気に入っているのはレッドレタスである。有機肥料や殺虫剤を作るのに１週間ほど時間がかかる。自家製の殺虫剤は３か月以内に散布される。さもなければ、効力が失われる。有機栽培は収穫するに十分な程度に発育するにはより長く時間がかかる。例えば、化学物質では約２０日で成熟するが、有機栽培の場合は１週間ほど遅れる。
　それらは完全に品質の面で異なる。化学物質で生育した野菜は１～２日しか品質保持できない。そして味も失われ早く腐敗が進む。それに比較して、有機栽培の野菜は５日間の品質保持が出来る。そして新鮮さと風味が失われない。ラオス農民は何百年にわたって、農業生態学に基づく土着の農民的知識を活用してきたのである。そして持続可能な農法の地域に根差した知識に信頼をおいて、そうしてやってきたのである。このタイプの農法はいかなる化学肥料も殺虫剤の使用とも無縁のものである。
　このプロジェクトは有機農業の進展によって、生活水準の向上、消費者の健康、持続的な資源の活用、経済成長に貢献している。
　これは、農業部と国際協力スイス協会によって進められたものである。